

愛知県

災害時外国人支援活動講座開催等業務

＜報告書＞



平成31年3月

目次

1	業務 概要	・ ・ ・ p. 4
2	災害時外国人支援活動講座	・ ・ ・ p. 5
	1) 概要	
	2) 第 1 回講座（名古屋地区）	・ ・ ・ p. 6
	3) 第 2 回講座（三河地区）	・ ・ ・ p.15
	4) 今後に向けて	・ ・ ・ p.28
3	災害時における外国人支援のための心構えリーフレット	・ ・ ・ p.29
	1) 概要	
	2) 内容	・ ・ ・ p.30
	3) 今後に向けて	・ ・ ・ p.33

1 業務概要

■ 業務名

災害時外国人支援活動講座開催等業務

■ 業務目的

「あいち多文化共生推進プラン2022」では『「多文化防災」の推進』を掲げており、言語や文化、国籍のちがいに問わず、誰もが防災に関心を持ち、災害時には互いに支え合う「多文化防災」を推進することとしている。今年度は、大規模災害時に外国人県民の対応を直接行う市町村職員、市町国際交流協会職員 及びボランティアに対して「多文化防災」への理解を深めるための講座を開催するとともに、外国人県民を避難所に受け入れる際のポイントをまとめたリーフレットを作成する。

■ 業務内容

- (1) 災害時外国人支援活動講座の開催
- (2) 災害時における外国人支援のための心構えリーフレットの作成

2 災害時外国人支援活動講座

1) 概要

■趣旨

東日本大震災以降、外国人は支えられる側だけでなく、支える側にもなることが認識され始めているが、一方で未だにそうしたことが理解されず、災害ボランティアとして外国人が参加することが想定されていない避難所やボランティアセンターも多い。外国人県民を自然に受け入れられるためには、日本人県民の意識を変える取組が必要となるが、まずは市町村や地域の理解が大切であることから、大規模災害時に外国人県民の対応を直接行う市町村職員、市町国際交流協会職員及びボランティア向けに「災害時外国人支援活動講座」を開催する。

■対象者

市町村職員(多文化及び防災担当)、市町国際交流協会職員、市町社会福祉協議会職員、災害時外国人支援ボランティア(「愛知県災害多言語支援センターボランティア」、AIAの語学ボランティア、市町村・市町国際交流協会のボランティア等)、その他災害時に外国人対応をする者(NPO、日本語教室等)

■開催場所

名古屋地区、三河地区で各1回

■定員

各80名程度

2) 第1回講座（尾張会場）

■日時

平成31年2月27日（水）13:00～17:00

■会場

あいち NPO 交流プラザ（名古屋市東区上堅杉町1番地）

■参加者

38名（報道関係5名含む）

*2/27 夕方、NHK 東海ニュース（テレビ）放送「災害時の外国人支援活動を考える」



（講義の様子）

■プログラム

13:00～ 開会あいさつ

13:05～ 第1部 講演会

「災害時外国人支援に関する課題と解決策」

NPO 法人多文化共生リソースセンター東海 代表理事 土井佳彦氏

「支援の担い手としての外国人材育成」

多文化防災ネットワーク愛知・名古屋 代表 葛冬梅氏

<質疑応答>

「愛知県災害多言語支援センター」の機能と役割

愛知県県民文化部社会活動推進課 多文化共生推進室

「災害時多言語表示シート」等各種支援ツールの活用について

多文化防災推進プロジェクト

<質疑応答>

15:05～ 休憩

15:15～ 第2部 ワークショップ

「やさしい日本語」での情報発信と被災者対応

多文化防災推進プロジェクト

15:35～ 「災害時外国人支援活動推進計画」

16:50～ まとめ、閉会あいさつ

17:00 閉会

■ アンケート集計結果（回収数 26 件）

【回答者属性】

市町村職員	6
市町村国際交流協会職員	1
市町村社会福祉協議会職員	1
民間、NPO 団体等（主な活動が多文化共生または国際交流である方）	4
民間、NPO 団体等（上記以外の方）	0
ボランティア・個人（主な活動が多文化共生または国際交流である方）	4
ボランティア・個人（上記以外の方）	2
県職員	1
その他	3
無回答	7

1. 本日の講座全体について、いかがでしたか。

大変有意義だった	15
有意義だった	10
普通	0
あまりよくなかった	1
よくなかった	0
無回答	1

【評価の理由】

- ・ 事例が、調べれば公開されていることがわかった。
- ・ いろんな視点からとらえられていたので勉強になった。
- ・ 外国人支援のニーズ、課題、対応策を知ることができた。
- ・ 各種支援ツールを知ることができた。

- ・ NPO の活用法についてさらに詳しく教えて欲しい。NPO リスト、能力（人員・支援できる内容）、連絡先等。
- ・ 日本語が理解できない外国人は、過去の災害で避難所生活、行政手続きで不利益が生じたのでやさしい日本語の大切さを理解できた。
- ・ 東日本大震災、熊本地震で、すでに仕組み、ノウハウができていて、そこを活かしていけば良いということが分かった。自分の自治体に外国人を入れていく方法が少しでも分かって良かった。

2. 第1部講演会について、いかがでしたか。

2-1. 災害時外国人支援に関する課題と解決策

よく理解できた	17
理解できた	8
理解できなかった	0
全く理解できなかった	0
無回答	1

【意見・感想等】

- ・ 基礎的な内容だった。
- ・ 事例が、調べれば公開されていることがわかった。
- ・ 事例が多く、わかりやすかった。
- ・ 個人の力でどこまでやれるか、自信はゼロ。でも頑張りたい。

2-2. 支援の担い手としての外国人材育成

よく理解できた	9
理解できた	17
理解できなかった	0
全く理解できなかった	0
無回答	0

【意見・感想等】

- ・TABO ゲームやってみたいです。
- ・コミュニティーの存在と具体的な接し方がわかった。
- ・キーパーソンとの関係づくりが興味深かった。
- ・日々の顔の見える関係づくりが大切だと感じた。
- ・日本の中で共生できるよう、みんなで頑張りたい。

2-3. 愛知県災害多言語支援センターの機能と役割

よく理解できた	10
理解できた	16
理解できなかった	0
全く理解できなかった	0
無回答	0

【意見・感想等】

- ・県職員ですが勉強になりました。
- ・国際センターが機能しないほど被災した際の代替案はあるのか疑問に思いました。

- ・もっともっと多言語で資料を作ってください。人数の多い外国語からでも。

2-4. 災害時多言語表示シート等各種支援ツールの活用について

よく理解できた	17
理解できた	9
理解できなかった	0
全く理解できなかった	0
無回答	0

【意見・感想等】

- ・知らないツールがたくさんあり、いろいろ試してみようと思いました。
- ・Google 翻訳の写真の取り込み機能に期待している。
- ・いろいろなツールを有効活用し、日本語がわからない外国人の情報格差が少なくなるので大切だと感じた。
- ・大いに利用・活用したいです。

3. ワークショップについて、いかがでしたか。

よく理解できた	5
理解できた	15
理解できなかった	0
全く理解できなかった	0
無回答	6

【意見・感想等】

- ・他団体の状況や考えがよくわかりました。

- ・ いろいろなお話が聞けて良かったです。
- ・ 時間が短かった。ワークショップ後の主催者側の説明が良かった。
- ・ できていないことばかりで苦しかった。
- ・ さまざまな立場の人の意見を聞くことができ、今後の避難所運営に役立つ有意義な時間だった。
- ・ 1年後、2年後、3年後の達成目標として指定があると考えが浮かびづらい場合もあると感じました。また、ワークショップの時間が短いと感じました。

4. 今回の講座を受講して、災害時の外国人支援に関して得た気づきや、今後取り組んでいけそうだと感じたこと、質問など、どのようなことでも結構ですので教えてください。

- ・ コミュニケーションボードの作成
- ・ ワークショップをもっと行い、課題の洗い出しを。
- ・ 近くの外国人に便利なツールを教えようと思います。顔が見える関係づくりを広げようと思います。平時の備えでできることから始めます。
- ・ わかりやすい日本語マニュアルの作成。
- ・ 現在、自分の市町村で働かれている外国人防災の意識を探りながら、積極的にコミュニティに入っていきたいと思った。
- ・ 平時に準備できること（多言語表示シート）を作成し、他部署の職員と共有したい。
- ・ 知っている外国人たちを、防災をキーワードにあらためてネットワーク化すること。

- ・とにかく資料集めをする。活用をしていきたい。
- ・今回の講座で、外国の方々に対してどういう支援をしていけば良いか具体的に知ることができた。今後、防災、発災時に活かしていきたい。
- ・行政だけではなく、民間も一緒に取組む方法を考えたい。地元の人たちが知っている情報もあわせると視野が広がる機会が増え、その分、可能性も広がるでしょう。
- ・基本対応（やさしい日本語＋ピクトグラム＋表表現）＋追加支援（多言語支援）

5. 災害時の外国人支援に関して、今後実施してもらいたい研修や支援制度等、ご要望があればお聞かせください。

- ・市町村職員向けの「やさしい日本語」の研修ないしワークショップがあると良いと思う。
- ・愛知県災害多言語支援センターについてのパンフレットの配布を市町村経由で実施してください。
- ・NIC の多文化防災ボラ（正式名忘れました）のシステムを県全体に広げてはどうですか。
- ・課題の洗い出しと解決法。避難所運営の研修あるいはシミュレーションを一般職員に行う。
- ・いろんな市町村で、計画を作るところまでの研修があれば良いと思いました。
- ・本日の講座を多文化担当だけでなく防災担当にも参加してもらえると良い。やさしい日本語 2015 の改訂版ぜひお願いします。いろいろな情報を有難うございました。

- ・ 何に困るのか、わかっているようでわからないので、たくさんの事例や体験を知りたい。
- ・ 相談窓口を知らせる。電話案内窓口の多言語化を進めていただきたい。資料活用講座。
- ・ 外国の方々を対象とした防災訓練の実施（日本人も参加可）。
- ・ 事例の発表をもっと聞きたいです。
- ・ 防災情報やお知らせを「やさしい日本語」を用いて「やさしく表現する」ことが有益と思います。
- ・ 基本対応（やさしい日本語＋ピクトグラム＋表表現）＋追加支援（多言語支援）⇒対象（要配慮者：外国人／視聴覚障害者・知的障害者／子ども）



(ワークショップの様子)

3) 第2回講座（三河会場）

■日時

平成 31 年 3 月 8 日（金） 13:00～17:00

■会場

西三河総合庁舎 会議室 701（岡崎市明大寺本町 1-4）

■参加者

44 名



（講義の様子）

■プログラム

13:00～ 開会あいさつ

13:05～ 第1部 講演会

「災害時外国人支援に関する課題と解決策」

NPO 法人多文化共生リソースセンター東海 代表理事 土井佳彦氏

「支援の担い手としての外国人材育成」

多文化防災ネットワーク愛知・名古屋 代表 葛冬梅氏

<質疑応答>

「愛知県災害多言語支援センター」の機能と役割

愛知県県民文化部社会活動推進課 多文化共生推進室

「災害時多言語表示シート」等各種支援ツールの活用について

多文化防災推進プロジェクト

<質疑応答>

15:05～ 休憩

15:15～ 第2部 ワークショップ

「やさしい日本語」での情報発信と被災者対応

多文化防災推進プロジェクト

15:35～ 「災害時外国人支援活動推進計画」

16:50～ まとめ、閉会あいさつ

17:00 閉会

■ アンケート集計結果（回収数 39 件）

【回答者属性】

市町村職員	12
市町村国際交流協会職員	2
市町村社会福祉協議会職員	2
民間、NPO 団体等（主な活動が多文化共生または国際交流である方）	0
民間、NPO 団体等（上記以外の方）	1
ボランティア・個人（主な活動が多文化共生または国際交流である方）	7
ボランティア・個人（上記以外の方）	9
県職員	2
その他	4
無回答	2

1. 本日の講座全体について、いかがでしたか。

大変有意義だった	17
有意義だった	19
普通	2
あまりよくなかった	0
よくなかった	0
無回答	1

【評価の理由】

- ・ 新たな情報を得られました。
- ・ 支援ツールを活用したい。

- ・わかりやすかった。主に役立つツールの情報提供が助かりました。土井さんの話もわかりやすく良かったです。葛さんのアドバイスも参考になりました。良い勉強をさせていただきました。ありがとうございました。
- ・今後活用できそうなツールなどを紹介してもらえたため。
- ・今まで知らなかった知識・多言語化への材料などたくさん知れてよかった。
- ・外国人対応等を実感したことがなかったので、知れたことがよかった。
- ・2年前、地元の多文化共生団体さんと（私たちが行なっている）避難所宿泊体験へ外国人の方の参加をしていただいたことをきっかけに、団体内で「やさしい日本語」を考えて行うことを少しずつ進めてきていたので勉強になった。
- ・地域で活用したい。問題があったら行政の協力が大切だと思った。
- ・講師の方からも同じグループの方からも興味深い話が聞けた。
- ・災害時の対応・情報提供の課題がみつきり、新しい発見の連続だったと思います。
- ・「災害多言語支援センター」の存在等、いろいろな情報が得られた。
- ・「災害（防災）×外国人」をいろいろな切り口（情報、ツール、担い手）から教示いただいた。

2. 第1部講演会について、いかがでしたか。

2-1. 災害時外国人支援に関する課題と解決策

よく理解できた	22
理解できた	17
理解できなかった	0
全く理解できなかった	0
無回答	0

【意見・感想等】

- ・「言葉の壁」がなくなるような付き合いをしたいです。
- ・現在使用できる既発行資料がまとめられているのがわかった。
- ・外国人の方の課題も、何を支援し、どう支援者になってもらえるかも理解できました。
- ・外国人対応が福祉部署（要援護者支援の枠組み）で考えられていると知り驚いた。
- ・実際の支援・現状を知ることができた。
- ・過去の災害の事例を出し、非常にわかりやすかった。
- ・お話が上手なので、わかりやすいです。
- ・仕組みとノウハウはすでにある。実践しなくっちゃ！
- ・いろんな事例を参考にしたいと思います。

2-2. 支援の担い手としての外国人材育成

よく理解できた	13
理解できた	23
理解できなかった	2
全く理解できなかった	0
無回答	1

【意見・感想等】

- ・外国人の方が実際に行なっている活動を楽しくわかりやすく聞けました。
- ・なかなか大変なことです。
- ・外国人側からのアドバイスは役立つと思います。
- ・TABO ネットの HP を見てみます。
- ・長年日本に住む外国人の意見を聞く機会はありませんので貴重だった。
- ・TABO ネットがどんなグループかがよくわかりました。
- ・熱意はすごく伝わってきました。
- ・「道遠し」の感想です。
- ・ネットワークづくりで大切なことを知る事ができた。

2-3. 愛知県災害多言語支援センターの機能と役割

よく理解できた	13
理解できた	25
理解できなかった	0
全く理解できなかった	0
無回答	1

【意見・感想等】

- ・多言語化は地域単体では難しいと考えていた。すでに仕組みができていることを知れたのはとてもよかった。
- ・災害時には情報発信に協力したい・してほしいと思います。
- ・センターがあることがわかり、他の人にも伝えたいです。
- ・非常時には活用していけたらと思う。
- ・こういう支援センターが県にあることを初めて知った。
- ・本音をおっしゃってくださった点はよいことだと思いました。県職の方には今回の反省点を実行していただき、ぜひ活躍を望みます。
- ・県レベルで各市町村に支援をいただけることなどを知り、安心しました。市へも訴えができます。
- ・芳賀さんの人柄が良かったです。
- ・大変心強く思えた。

2-4. 災害時多言語表示シート等各種支援ツールの活用について

よく理解できた	18
理解できた	21
理解できなかった	0
全く理解できなかった	0
無回答	0

【意見・感想等】

- ・防災訓練等で普及できたらよいと思います。
- ・利用したいと思います。

- ・ いろんな場所で広めることができるとよいと思った。
- ・ 資料的に参考になった。
- ・ とても有効でした。
- ・ 今後、やさしい日本語を使用し、避難所等での外国人対応力を強化していくので、参考にさせていただきます。
- ・ ちょうど3月の刈谷市議会本会議で「00000JAPAN」、「コミュニケーション支援ボード」、「観光客含む外国人向け避難防災アプリ」のことを取り上げました。とてもリアルタイムで驚きました。
- ・ とても役立ちます。
- ・ 多くのツールを紹介されていて有益。
- ・ 今後役立てていきたいです。
- ・ いくつかツールを試してみようと思います。
- ・ シートは以前から考えていました。聾の方にも役立ちますので。
- ・ 本市の資料を作成する際に活用していきたい。
- ・ ツールを利用したい。
- ・ こういった情報提供は助かります。
- ・ 自分の団体の中でまずツールを使い、勉強したいです。またツールを利用し、準備しておきたい。

3. ワークショップについて、いかがでしたか。

よく理解できた	14
理解できた	18
理解できなかった	2
全く理解できなかった	0
無回答	5

【意見・感想等】

- ・ 今日はお話した人と仲良くなりました。
- ・ 近隣市の取り組みが、我が市にとっては先進的で、大変参考になりました。
- ・ 時間が短かったです。テーマが大きすぎ。
- ・ 凝視と自治会の差、GAP が大きいことがわかった。
- ・ 同じ行政職員の方と同席でき、貴重な意見交換の機会になりました。
- ・ まとめ役を決めるなど手順のリードが必要と感じた。
- ・ 他の方の達成目標は、他の方の目線で、自分の視野や問題意識を広げることができた。
- ・ 他の自治体の意見を聞いて有意義でした。
- ・ 外国人と日本人が平等に、同じように活動できればいいな。
- ・ 同グループ内の名古屋市・碧南市での「災害時外国人支援活動」に関するようすが伺えました。
- ・ グループ内のいろいろな立場の方からの意見・考え方を聞くことができ勉強になりました。とてもよい時間でした。個人ワークの様式も使いやすかったです。

4. 今回の講座を受講して、災害時の外国人支援に関して得た気づきや、今後取り組んでいけそうだと感じたこと、質問など、どのようなことでも結構ですので教えてください。

- ・外国人の担い手がいる自治会の取り組み事例を知りたいです。
- ・外国人に支援する側になってもらうためにも、もっともっと地域でのつながりが大切。
- ・愛知県災害多言語支援センターは、いつできましたか？
- ・多言語表示シートは何かと便利だと思った。
- ・多言語情報発信ツールは知らないものも多く新たな情報を得られました。
- ・多言語で facebook 発信をしたいなと思いました。
- ・第一歩として、外国人とお友達になること。
- ・市町の自治会・町内会単位で、外国人居住者への啓発活動が必要では？
- ・今回の講座で地域の役員と行政の方々と一緒にやれたのは大変よかった。
また、行政とボランティアとの意見交換もできるとよい。さまざまな人との意見交換はよいことです。
- ・避難所ではもちろん、わかりやすい日本語で話すことの大切さを知りました。
- ・外国人支援をしようにも、地域の外国人の概要が捉えられないという現実に驚きました。
- ・災害時に応急仮設住宅の供給をする担当なので、まずは応急仮設住宅の建設・入居において必要な情報を予め多言語で用意するようにしたいと思っています。

- ・行政の方は仕事で、ボランティアで参加されていますか？地域行事に参加していますか？
- ・町内の一員として受け入れる（入会してもらう）ことが重要（第一歩）。
- ・ボランティアありきの防災ではなく、国・行政がちゃんと人と金を出したほうがよい。外国語スキルアップも全員必要。「避難・避難所・evacuation・shelter」としてもわかりにくいと思います。「逃げるところ」も今ひとつピンときません。「KARAOKE」のように「HINANJO」とローマ字表記をして浸透できないでしょうか。
- ・多言語化ツールを活用すること。「やさしい日本語」を行政・市民に伝えること。
- ・今回、国際交流の担当が一緒に参加していたので、何ができるか話してみたいです。職員研修としてできると、少し事が動くと思う。
- ・自分が担当している学区の防災関係者へ今日のことを伝える。
- ・町内会事務を担当しているため、ワークショップ内で出た他市の「総代会において、その校区の外国人の数・国籍を情報提供する」ことを取り入れていきたいと思います。現場に足を運び、より多くのつながりをもちたいと思います。
- ・まずは外国人のコミュニティに参加し、そこからつながっていけたらと思った。
- ・HP やアプリを他部局の職員等に周知・啓発をはかっていきたい。
- ・接点をみつけ、つながりを強めていくことが非常に縦横であると気づいた。しかし、その「接点」をみつけることが難しい。個人的には一人ひとりあたっていくわけにもいかない…。外国人団体に関する情報があれば、積極的に提供していただけると良いと思います。

- ・ いろいろなアプリや web サイトの紹介。
- ・ 地域の外国人の方は、町内会紐払っておられないことで訓練参加ができていない場合があります。今後参加をしていただくとともに、何が必要かを（困ることを共有し）地域で考える機会をつくりたい。
- ・ 県の方が正直でとても心地よかった。

5. 災害時の外国人支援に関して、今後実施してもらいたい研修や支援制度等、ご要望があればお聞かせください。

- ・ まずは外国人との交流が大切（企業にも問題あり）。協力性がうすい。
- ・ 通訳ほかボランティア要員の確保。
- ・ 実際に外国人の方をまじえてのシミュレーションやロールプレイ等
- ・ 災害ボランティア講座等
- ・ どれくらい狭いエリアでこういった研修をやっていただけるかが気になります。
- ・ 小規模で身近な単位で市民向けでの実施にも力を貸してほしい。
- ・ 先進自治体の実務レベルの話を聞きたいです。
- ・ 災害時の多言語支援ができていると知ってはいたものの、ボランティアさんのため、どれだけの能力があって、どのようなところまで依頼できるのかを具体的に知りたいので、平時も依頼したら支援いただける制度があれば助かる。
- ・ 定期的にこのような講座を開催してほしい。
- ・ 現場の意見となりますが、防災全体で行わなければいけないことが多く、外国人に対することがなかなか行えていない状況です。必要な対策につい

て、防災局と連携し、市町村へ様々な情報提供・指導をしていただけると動きやすいです。

- ・ 外国人災害時通訳ボランティア・日本人・行政合同の防災訓練をしてほしい。
- ・ 外国人の方が支援者側として入っていただいた場合、外国人同士ではなく、日本人に対してよかった例や報告（災害時のために平時からどのように地域につながっているか知りたいです）。



(ワークショップの様子)

4) 今後に向けて

本講座は、前述の参加者アンケートを見る限り、多くの方から学びの多い意義のある機会だったと好評を得ることができた。また、運営側としても様々な地域や立場の方々との情報共有及び意見交換等から、今後の活動に向けて多くの示唆が得られた。また、このような講座に外国人が参加しやすいよう工夫することで、多文化防災の担い手となる外国人材の育成にもつながっていききたい。そこで、今回の経験をもとに今後さらに多文化防災を推進していくために、以下のことを提案したい。

＜今後の多文化防災推進に向けた提案 その1＞

1. 本講座と同様の講座を今後も定期的・継続的に開催すること
2. 災害時外国人対応に当たる可能性のあるすべての自治体職員等に
講座への参加を呼びかけること
3. 本講座を基礎研修とし、その後の実践的な訓練や具体的な改善等を
議論する場づくりにつなげること
4. 本講座をモデルとし、各市町村主催での開催をはたらきかけること
5. 本講座を外国人も参加しやすいようアレンジし、開催すること

3 災害時における外国人支援のための心構えリーフレット

1) 概要

■趣旨

避難所では、言葉や習慣のちがいなどから外国人が孤立したり、情報が外国人に伝わらないといった問題が発生する場合がある。外国人県民を受け入れる避難所の担当者やボランティア等は、これらの問題を意識しながら対応することが望ましい一方、普段から外国人県民と接していない者にとっては難しい。そこで、避難所担当者や外国人支援にあたるボランティア等向けに、「災害時外国人支援活動講座」の中で受講生から出されたアイデア等も交え、避難所での課題などと周知し、外国人県民を避難所に受け入れるためのポイントをまとめたリーフレットを作成する。

■対象者（発送先）

県内市町村、県内国際交流協会、県内社会福祉協議会等

■部数

5,000 部

■規格

A 3 版 2 枚（両面）、カラー刷り

2) 内容

■タイトル

「保存版 多文化防災ガイド」

■項目

①災害時の困りごと＆解決法

- ・言葉が通じない!? 災害用語は難しい。
- ・地震も台風も初めてで怖い！ヒナンジョってなに？
- ・避難所の食事は何が入っているのか不安…。
- ・避難所で誰も話しかけてくれなくて孤独。何も情報が入ってこない…。

②多文化防災つかえるツール

- ・防災チェックガイド（（公財）愛知県国際交流協会）
- ・災害のときの便利ノート（（公財）かながわ国際交流財団）
- ・Safety Tips（観光庁）
- ・愛知県災害多言語支援センター（愛知県）
- ・Voice Tra（（国研）情報通信研究機構）
- ・災害時支援用指さしシート（情報センター出版局）
- ・災害時多言語表示シート、食材の絵文字、多言語避難者登録カード
（（一財）自治体国際化協会）
- ・災害用コミュニケーション支援ボード（豊田市）

③共に災害を乗り越えるためのポイント

○ふだんからできること

- ・ご近所の外国人とつながっておこう！
- ・みんなで多文化防災のことを学んでおこう！

○災害が起きたとき

- ・避難所にいる外国人の情報を把握しておこう！
- ・避難所のルールは、わかりやすく貼り出そう！
- ・避難所はみんなで運営するものだ伝えよう！
- ・協力者をみつけて、具体的に依頼しよう！

○外国人との協働チェックリスト

④外国人の声

- ・村上アリセさん（ブラジル出身）
- ・葛冬梅さん（中国出身）
- ・レレイト・エマニュエルさん（ケニア出身）
- ・オルテガ・レオナルドさん（ペルー出身）

「保存版 多文化防災ガイド」

(表1-4)

多文化 防災 ガイド

日本人と外国人が、共に災害を乗り越えるために。

近年、地震だけでなく、台風や水害などの災害が各地で多発しています。災害時は、日本人も外国人も、分けてではなく困難な状況に陥ります。特に外国人は、言葉や生活習慣の違いから情報が手に入りづらく、要支援者となりがちです。しかし、適切な情報を伝えることで、支援者側として活躍してもらえる可能性があるのです。外国人が多く住む愛知県。いざ災害が起こると、多くの外国人が周りにいたことに気づくでしょう。同じ地域で暮らす住民として様々な違いを認め、助け合い、困難な被災後の生活を乗り越えていくための方法をご紹介します。

災害時の困りごと&解決法

共に災害を乗り越えるためのポイント

多文化防災つかえるツール

外国人の声

このガイドの使い方

避難所に備え付け、災害時に参考します。中のページは指示用として使えます。防災訓練を行う時にも参考としてください。

外国人の声

愛知県在住の外国人のみなさんに、外国人と日本人が「共に災害を乗り越える」ためのヒントを聞きました。

村上 アリセ さん
ブラジル 出身

東海地域の防災訓練でポルトガル語の通訳ボランティアをしています。日本人の友人に誘われて地域の防災活動に関わるようになりました。外国人の中には日本語が話せない人もいますが、力仕事や仕分けの仕事など、言葉の壁を越えて協力できることはたくさんあります。外国人の居るはパワーがあり、きっと避難所でも活躍します。活動に外国人を巻き込んでください。困ったときは「お互い様」助け合いましょう。

藤 冬樹 さん
中国 出身

自然災害が少ない江蘇省出身の私は、平日訓練、台風や地震に怯えていました。防災イベントに参加する中で防災の知識を得た今では、災害時に周りの人を助けたい、避難所運営にも積極的に携わりたいと考えているようになりました。活動の際には国籍に関係なく、平等に声をかけて欲しいです。外国人への接し方がわからない時は、日本語がわかる外国人を見つけて相談してください。きっと協力の輪が広がるでしょう。

レイト エマニエル さん
フランス 出身

大学で、留学生に対する専門教育と、被災地復興センターの教員を兼務しています。特に「防災教育」に力を入れており、災害対策や災害対応について日頃から留学生と議論しています。留学生には日本語と英語で得意なバイリンガル学生が多いので、災害時には通訳者としても活躍できるでしょう。知識を身につけるだけでなく、実際にコミュニティに貢献する活動ができる学生を育成したいと考えています。

オルテガ レオナルド さん
ペルー 出身

災害時に日本人と外国人が助け合うためには、重役から種族になっておくことが大切です。防災訓練だけでなく、大掃除、お祭り、子ども会や老人会などの行事にも地域の外国人を誘ってください。「やさしい日本語」で話してくれば、だいたいの外国人は理解できます。言葉を交わし、ご近所付き合いを深めると協力者が見つかります。普段の地域活動を「誰か、何をできるのか」を知るチャンスにしてください。

2019年3月
発行：愛知県民文化福祉社会活動推進課 多文化共生推進室 電話：052-954-6138
制作：多文化防災ネットワークプロジェクト（多文化防災ネットワーク愛知・名古屋/NPO法人多文化共生リソースセンター・愛知）

(2-3)

災害時の外国人、困りごと&解決法

言葉が通じない!? 災害用語は難しい。

災害時に使う言葉は難しく、通じないことが多いので、「やさしい日本語」(J)を使いましょ。Jは、簡単な日本語より言葉がやさしい(日本語を減らす)スマートフォン等で使える「**翻訳アプリ**」も有効です。 → **つたえるツール 3-6**

地震も台風も初めてで怖い！
ビナジヨってなに？

地震や台風の経験が少ない国出身の人もいます。外国人にも防災訓練に参加してもらう工夫をしましょう。避難所のルールも「当たり前」と思わず、わかりやすく説明しましょう。 → **つたえるツール 3-6**

避難所の食事は何が入っているのか不安。

アレルギーや宗教の問題で、食べ物の制限がある人もいます。避難者登録時に確認しましょう。食料表示用のピクトグラム等で、何が使われているのか表示しましょう。 → **つたえるツール 3-6**

避難所で誰も話しかけてくなくて孤独。何も情報が入ってこない。

日本語がわからないから、と決めつけず、話しかけてみましょう。家族や周囲の人を通して、コミュニケーションが取れることもあります。 → **つたえるツール 3-6**

外国人と共に災害を乗り越えるためのポイント

1 ご近所の外国人とつながっておこう！

地域知りになっておく。非常時にスムーズに助け合うことができます。日本人も外国人も同じですね！

2 みんなで多文化防災のことを学んでおこう！

外国人と一緒に防災訓練をしておきましょう。 → **つたえるツール 11 防災チェックガイド 等**
避難所の物品等、必要な準備は事前にしておきましょう。 → **つたえるツール 17 災害時多言語表示シート 等**

3 避難所にいる外国人の情報を把握しておこう！

避難所にいる外国人の基本的な情報(国籍、話せる言語、特殊食べられない物等)は、受付時に把握しておきましょう。また、受付時だけでなく十分な情報を把握できるわけではないため、情報の追加や修正はいつでも行ないましょう。 → **つたえるツール 8 多言語避難者登録カード 等**
外国人だけを無理にグループにまとめないようしましょう。それぞれ話したいのか、意見を聞きましょう。

4 避難所のルールは、わかりやすく貼り出そう！

日本人にはあたり前でも、外国人には馴染みがないルールもあります。多言語や「やさしい日本語」で書いて共有しましょう。(例：夜9時以降は、静かにしましょう)

5 避難所はみんなで運営するものと伝えよう！

日本人も外国人も、避難所の運営が自分ごとと意識することが大切です。お互いに協力し合えるよう、外国人だけでなく、日本人に対して、「避難所は、みんなで協力して運営するものである」ことを伝えましょう。

6 協力者を見つけ、具体的に依頼しよう！

通訳・翻訳ができたり、炊き出しや仕分けが得意な人はいまいます。「できることはありますか？」と聞いてみましょう。 → **つたえるツール 5 VoiceTra 等**
協力してほしいことは、具体的に依頼しましょう。(例：ごはんを配るの手伝いをしたい)

適切な情報を伝えることで、日本人も外国人も、共に協力し合える環境をつくっていきましょう！

32

3) 今後に向けて

本リーフレットは、災害時の避難所運営者等を主な対象に、これまでの大規模災害における外国人対応等のポイントに加え、新たに外国人を災害時の担い手として捉えること等をコンパクトにまとめた全国的にも珍しく貴重な資料である。それがゆえに、今後の活用方法等について、よりきめ細やかなアドバイス等のはたらきかけが必要となる。また、本リーフレットを外国人県民にもわかりやすく編集することで、避難所運営の担い手となる外国人の育成にもつなげていきたい。そこで、本リーフレットを活用し、今後の多文化防災を推進するためのポイントを以下に提案する。

＜今後の多文化防災推進に向けた提案 その2＞

1. 本リーフレットについて、メディア等を通じて十分に周知すること
2. 避難所運営訓練等での活用方法について提案すること
3. 本リーフレットを活用した講座等を企画・実施すること
4. 避難所運営訓練等での活用事例を確認し、HP や SNS 等で広めること
5. 本リーフレットを外国人にもわかりやすいようアレンジすること

2019年3月

愛知県「災害時外国人支援活動講座開催等業務」報告書

多文化防災推進プロジェクト

(多文化防災ネットワーク愛知・名古屋／NPO 法人多文化共生リソースセンター東海)